

1. 略歴

- 1977年3月 東京教育大学附属高等学校卒業
1977年4月 東京大学教養学部文科3類入学
1981年3月 東京大学文学部第一類（美学芸術学専修課程）卒業
1981年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程入学
1984年3月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程修了
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程進学
1988年9月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程単位取得退学
（その間 1987年10月～1988年9月 DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生としてハンブルク大学に留学）
1992年10月 東京大学大学院人文科学研究科において博士（文学）取得
1988年10月 神戸大学助教授，文学部（哲学科芸術学専攻課程）
（その間 1990年10月～1991年8月 ハンブルク大学で研究）
1993年10月～ 神戸大学大学院文化学（博士課程）兼任
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科（美学芸術学専門課程）助教授
2007年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）教授
（その間 2008年10月～2009年9月 ドイツ連邦政府の招聘によりドイツにて研究）

2. 主な研究活動

a 専門分野

美学・芸術学の基本概念の研究、「感性の学」としての美学の歴史的再構成、18世紀から19世紀にかけてのドイツ語圏を中心とする美学理論の研究、20世紀前半におけるドイツと日本の美学交渉史の研究、および間文化的視点からの美学理論の構築

b 研究課題

第一に、2001年に公開した『芸術の逆説——近代美学の成立』以来の研究の一環として、美学・芸術学の基本概念の研究に従事している。その一端は2009年に公開した『西洋美学史』（東京大学出版会）において示した。この書物は、学説史研究の持ちうる現代的な意味を問う試みでもあり、この研究をその後も継続して行っている。

第二に、「感性の学」としての美学を歴史的に再構成し、現代の美学を刷新する作業に携わっている。これは数年後に『西洋美学史』第二巻として結実するはずのものである。この2年間はとりわけカントとヘルダーに即してこの主題を検討した。

第一、第二の研究課題とも関連するが、第三に、近代美学を基礎づけた書物と一般に見なされているカント『判断力批判』への新たな接近の試みに基づく美学の教科書の公開に向けて、準備を進めた。これは2、3年以内に完成させたいと考えている。

第四に、昨今の「間文化性」への関心の増大に応じつつ、19世紀末から20世紀前半における日本の西洋美学の受容を「間文化性」の問題として扱う可能性を探る作業を継続している。

c 概要と自己評価

上記四つの課題に関して、この2年間はとりわけ第三の課題に多くの時間を割いた。本来ならばこの作業により集中すべきとも思ったが、国内外からいくつかの共同研究の誘いを引き受けたため、第三の課題に関しては前半部をどうにか完成させるにとどまった。だが、共同研究の誘いは研究上の視野を広げる意味もあるため、今後も可能な限り引き受けたいと考えている。

d 主要業績

(1) 論文

小田部胤久、「「われわれは一つの思考する／永続的な共通感覚器官である」——ヘルダーの命題をめぐるカッシーラーとメルロ＝ポンティ——」、『美学芸術学研究』、33/34、181-200頁、2016.3

小田部胤久、「「生の技術」としての芸術——晩年のヘルダーの美学的思考の帰趨——」、『思想』、2016年5月号、36-54頁、2016.5

小田部胤久、『判断力批判』において ästhetisch とは何を意味するのか——ästhetisch に意識すること、ästhetisch な量評価、ästhetisch な理念をめぐる——、『カント研究』、17、37-46頁、2016.7

小田部胤久、「『美的生活』論争の射程」、『日本の哲学』、17、52-67 頁、2016.12

小田部胤久、「カント『判断力批判』における〈範例性〉をめぐって—paradigma/exemplar を巡る小史」、『美学芸術学研究』、35、157-205 頁、2017.3

Tanehisa Otabe、「Schoene Kunst als "Kunst zu leben". Zum aesthetischen Denken des spaeten Herder.」、『JTLA』、40/41、61-74 頁、2017.3

Tanehisa Otabe、「Intercultural decontextualization and recontextualization in the globalized era: with a special focus on the idea of the "Aesthetic Life" in modern Japan」、『Proceeding of ICA 2016』、2017.5

(2) 学会発表

国内、小田部胤久、「パリのイロクオイ人と孤島のロビンソン——カント美学と文明化の過程」、美学会東部会、2016.5.28

国際、Tanehisa Otabe、「The "Debate on the Aesthetic Life" in Late Meiji Japan: Intercultural Decontextualization and Recontextualization」、International Congress of Aesthetics、Seoul National University、2016.7.27

国際、Tanehisa Otabe、「An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization」、ISECS、フィレンツェ大学、2016.8.26

国際、Tanehisa Otabe、「An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization」、中華美学会、杭州大学、2016.10.19

国際、Tanehisa Otabe、「An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization」、Culture Within Dialogue East-West - International Conference on Cross-Cultural Philosophy、2016.11.11

国際、Tanehisa Otabe、「Three Aspects of Being Aesthetic in Kant's CPJ: Becoming Aesthetically Conscious, Aesthetic Estimation of Magnitude, and Aesthetic Ideas」、Colloquium, Seoul National University、2017.5.18

国内、小田部胤久、「『判断力批判』における範例性をめぐって——範例的必然性と範例的独創性——」、新プラトン主義教会、2017.9.24

(3) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、小田部胤久、研究代表者、「『共通感覚』の美学（史的再定義）、2016～

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、美学会、会長、2016.4～2016.10

国内、日本シェリング協会、会長、2016.6～2018.3

国内、日本18世紀学会、代表幹事、2017.7～2018.3

国際、Culture and Dialogue、編集委員、2016.4～2018.3

国際、Allgemeine Zeitschrift fuer Philosophie、編集委員、2016.4～2016.9

国際、国際美学連盟、副事務局長、2016.7～2018.3

国際、国際18世紀学会、派遣委員、2016.4～2017.7

国際、国際シェリング協会、委員、2016.4～2018.3

国際、美學藝術学研究（韓国）、編集委員、2018.2～

(2) 学外組織 委員・役員

日本学術振興会特別研究員等審査会委員・専門委員、2016.4～2017.3

日本学術会議連携会員・哲学委員会幹事、2017.10～

NPO アートセラピー研究所 DAM 役員、2016.5～2018.3